

東近江総合医療センター 新型コロナ入院症例の予後に及ぼす影響に関する臨床研究  
に関するお知らせ

東近江総合医療センター（以下当院）は、過去約3年間に渡り、感染症指定病院として、約800名に至る新型コロナ感染症の患者さんの入院診療にあたって参りました。

2023年5月上旬から、新型コロナ感染症が5類相当感染症に移行するにあたり、東近江医療圏における同感染症診療の体制を新たに構築する必要があります。

そこで、当院に入院された患者さん（特に高齢者）の、診療の効果、そして、予後に与える影響を検討することで、新たな診療体制への構築にするための、参考資料とすることを考えております。

そこで、診療録を再検討し、新型コロナ入院症例の予後に及ぼす影響を解明したいと考えております。

対象となる患者さんは、2022年1年間に当院コロナ病棟に入院された年齢75歳以上の患者さんです。

研究に関して、新たな介入（治療や検査）が生じることはありません。また、個人情報に十分に配慮して研究を進めていきます。得られたデータは、特定の個人を鑑別できないように厳密に保持し、目的以外には使用しません。また、本検討により、新

知見が得られた場合に、学会や学術雑誌に投稿・公表する可能性があります。その時にも、個人情報漏洩しないように配慮いたします。

本研究に質問のある方、研究への参加の辞退を希望される患者さん（ご家族）がございましたら、当院、内科診療部長 杉本俊郎までご連絡いただければ幸いです。